

業種／卸売業・小売業
 主な事業内容／総合商社
 従業員数／2,645人

滞在に備えて備蓄の強化

●停電時への対応力を強化

従来、非常用電源はビル会社が提供している共有部（エレベーターやトイレ等）にしかなかった。2019年にビル会社が専用部に電源供給可能な非常用発電機を増設したため、ビル会社と協議を行い専用部への非常用電源供給体制を実現。さらに非常用蓄電池、ソーラーパネルを17階から26階の各フロアに配備した。

●自宅用にポータブル電源やソーラーパネルを貸与

災害は勤務時間に発生するとは限らない。また、自宅からリモートで業務をしていることもある。そこで、自宅で被災することを考慮し、一部社員にはポータブル電源やソーラーパネルを貸与してい



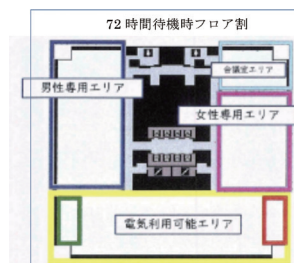
蓄電池・ソーラーパネル

る。ソーラーパネルによる充電には時間がかかるため、定期的に充電器を満たしておくことを習慣づけている。

●フロアを男女別に切り分け宿泊

女性用にはレディースセットを備蓄品に用意。各階フロアは左側を男性エリア、右側を女性エリアとして、72時間の宿泊に備えている。

また、会議室は負傷者や病人用の緊急の病室とする計画だ。



女性用品



多様性を配慮した食料備蓄

●5日分の食料を確保

1日分は社員の手元に置き、2日分は各フロアに備蓄して、さらに2日分を倉庫に保管している。朝はシリアル、昼はパン、夜はご飯というように、バランスとバリエーションを考慮している。

●アレルギー症やベジタリアン向けの食料を保管

アレルギーのある方向けに、アレルギー物質無しの非常食も揃えた。また、ベジタリアンの方でも食べられるよう、野菜のみの非常食も取り入れている。



アレルギー対策用非常食 こんぶ&トマト味



保存水

●民族の多様性に配慮

総合商社であることから海外の方も多く、ハラルのように宗教で食事されている方も多し。そのような方々に応えるための食料も完備している。

●ゴミ処理も検討

被災の現場では緊張もしており食欲がないことが考えられる。大人数が一斉に食事をするため、大量のゴミも発生する。ゴミの圧縮やゴミ処理も含めて従業員に啓発していく。

事業最優先から人命最優先に切り替え

2年前にBCPのあり方を大きく変更している。それまでは文字どおり業務の継続を最優先していたが、これを人命最優先にかじを切り替えた。これにともない、備蓄や訓練において人命を重視したきめ細かな施策を取り入れている。